

寺報 善 巧

発 行

〒 938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル info@zengyou.net
U R L http://www.zengyou.net

四月二十三日十時
花まつり
みんなのいのちありがとう



寺
ごよみ

四月

一日 下村お講
八日 仏教入門講座
九日 清掃奉仕
一三日 歎異抄講座
一六日 栗虫お講
一九日 仏婦総連盟総会
二二日 花つみ



春はお釈迦さまのご誕生をお祝いする花まつりです。

お釈迦さまは二千五百年以上前にインドにお生まれになったお方で、元の名をゴータマシッダルタといい、釈迦族の王子として生を受けました。一国の王子でしたから、財産や地位、名誉にも恵まれ、知能や体力も万能だったと伝えられます。そんな何不自由ない環境の中で、なぜ出家されたのでしょうか。

私たちが一番追い求めているもの、それらすべてをなぜ捨てたのでしょうか。それは、老病死を目の当たりにしたことが原因とされます。歳をとりたくないと思っても一瞬たりとも止まることなく歳をとっていき、病気になるたくないと思っても、病に冒されていく身が私たちの姿。そして、どんなに死にたくないと思っても、必ず死んでいくいのちを私たちは今生きています。死を前にする時、財産も名誉も地位も何にもなりません。

ブッダからのメッセージ

「そんなことはわかってる」と、ふつうはそこで思考ストップ、なるべく考えないようにしますが、お釈迦さまはそこから目を背けず、徹底的に見つめ直し、ついに仏教を説かれたのです。

「今こそいのちの尊さを伝えなければならない」と言われていますが、私たちは本当にいのちを尊いものとして生きているのでしょうか。人生順調な時は「いのちは尊い」と言っていて

も、いざ逆境に立たされれば、一転していのちを放り投げてしまうような心を私は持っています。自分の目のいのちを見つめる限り、それは自分の都合だけでコロコロ変わります。「いのちが尊い」ということは、仏さまの眼差しにあつてはじめて知らされることでした。知らされながらも、変わらぬ私。

仏教を聞くとは、感謝と慚愧の心を育て続け、「生涯育ち盛り」の道でした。

住職 雪山俊隆

平

花

妙好人のことば (二)

行信教校講師 山本摂叡師



法然聖人には大変面白いお言葉が多くございます。そして、一つだけ難しいことをいいますけれども、同じ信心と申しまして、法然聖人の場合は、観無量寿経というお経によって語っていかれます。観無量寿経に説かれた信心というのは何かというと、三心という言葉が出ております。至誠心・深心・廻向発願心、このような言葉を使われ

ておられます。法然聖人のお言葉というのは徹底して、この三心によって教えを説いていかれます。法然聖人ご自身は親鸞聖人が真実の教えと言われた無量寿経の信心ということとはほとんど語られないわけです。三心のことで法然聖人は非常に詳しく言われる一面もありますけれども、また、このような言い方もされておられます。「何も言葉も難しい道理も知らないものであっても、仏さまの言葉を聞いて素直にお念仏しておるものには自然と、三心はそなわっているんだよ。」とおっしゃるんです。これが有難い

ことです。三心ということとを一切知らないものであっても、素直に本願を聞いて、本願をよることでお念仏するところには三心はそなわっているんだよとおっしゃるわけです。もう一面は三心の心を詳しく解説されていかれます。親鸞聖人の場合は信心というものを徹底して本願の上で語っていかれます。

法然聖人がこの三心という言葉によって示していかれたことは、あくまで信心の行者がどのような生活をすべきかということを中心に語っていかれたらと思うわけです。信心というのは抽象的なものでもなければ心の問題というわけでもないわけです。私達の日常生活そのものの上に反映し、生きてくるものでなければ本當の宗教でも、信心でもないはずなんです。ですからそういったことを語られる面では法然聖人はつねに具体的な心のあり

ようというものに立って語っていかれたんだろうと思うわけです。

一方、親鸞聖人が本願の上で語られた信心というものは、あくまで他力の法義、救いの法というものの、成立根拠を究明していかれたのが親鸞聖人でした。だから私は三心という言葉さえも知らなくても、素直にお念仏をするものところには、自然と三心がそなわっているんだよといわれた、その根拠ということをあくまで考えていかれたのが親鸞聖人だったんじゃないかと思うんです。そうしますと法然聖人と親鸞聖人というのは、昔読んだ「出家とその弟子」を書かれた倉田百三という作家が「法然聖人と親鸞聖人は、二人で一人の人格だ」とおっしゃった言葉は素晴らしい名言だと思います。念仏一行専修という、仏教の上ではとんでもない破天荒な主張をされた法然聖人、

そして、その内容を明らかにしていかれた親鸞聖人、そのおふたりが一緒になつて私達に、今お念仏をすすめていてくださる。そのように考えたら有難いわけです。

今から一つだけとりあげて、法然聖人のこの至誠心ということについて紹介を申し上げていきたいと思うわけです。法然聖人が具体的な信心を語られるのに一番量的に多いのは至誠心という言葉です。至誠心というのは、端的に言いますと、「至は信なり、誠は実なり」とおっしゃいます。つまり真実心ということなんです。「しじょうしん」と発音いたします。至誠心というのは要するに真実心ということであるんだとおっしゃいます。そして真実ということがどういうことかということ、いろいろな場面で語られるんですが、今日はこのようなお話をとり上げさせていただきます。七

簡条起請文という御文です。これはちやうど法然聖人が流罪になられる三年ほど前、法然教団に対して様々なところから非難の声が高まっていたやうでございます。それに対して御門弟に対して出されたのが七箇条制誠といわれます。比叡山に出された浄土宗の立場の宣言が七箇条の起請文という御文です。その中に至誠心のことをおっしゃられるんですが、このようにおっしゃいます。「至といふは真なり、誠といふは実なり。ただ真実心を至誠心と善導はおほせられたるなり。真実といふはもろもろの虚仮のことのなきをいふなり」真実はひっくり返すと虚仮ですから、虚仮の心がないありようのことです。親鸞聖人も「虚仮を離れて」というように虚仮の反対概念として真実という言葉を使われます。虚仮を離れるということは特別な宗教でなくても、

私たちは真実心をもって生きたほうがよろしいですね。ただし、どのような心が真実心であるかというとなかなか問題です。何か、私の心を真実にしていかなければいけない、私の心を完全に美しいものにしていかなければいけない、そのようにとられてしまうと問題ですけども、私たちの心は、もともとが凡夫だから、煩惱が起こって「それはど

ました。今でこそ便利に車で行くことができませんが昔は雪が深い所で冬の間は外界との交通が遮断されるような山の中だったわけですね。おそらく道宗の住んでおられた所も近いところがあつたと思うんです。そうすると道宗は薪を並べて、その上に寝ておられる姿が今もあそこにあります。いわゆる臥薪嘗胆です。時折はそれほど厳しくしなけ

う人は失礼ですけども、浄土真宗のことが何も分かっていないんです。私は浄土真宗ほど厳しい宗教というのはないと思います。ただし厳しさは堅苦しい厳しさではないです。つねに本願に照らされてあつた自分が、本願に背くような生き方しかできない。なんと恥ずかしいことだろうかという厳しさです。強制される厳しさじゃないんです。

考えます。道徳は世間の教えであつて、宗教はもつと違つてと私自身も考えていましたけども、蓮如上人や法然聖人の言葉を讀ませていただくとも私もその考えを修正しなければいけないと思います。浄土真宗には浄土真宗の信仰から、内面から滲み出てくる道徳というものがないければ宗教としての意味がなくなってしまうのではないのでしょうか。

浄土真宗は何もしなくてもよいというのは間違い

うでもいいんだ」というのは宗教以前じゃないでしょうか。浄土真宗の考え方が少し違つてきたのではないかと思うんです。もともと従来の浄土真宗は、念仏者達はもの凄く厳しい、日常生活の姿勢というものをもっていらつしやうたんです。ここからは比較的近い五箇山に赤尾の道宗という蓮如上人時代の妙好人がおられ

れば、如来さまの恩ということについて甘えてしまふ。如来さまの御恩を忘れてしまうような自分だからこのようにしなければならいんだと言つて薪の上に寝ていらつしやうたんです。そのような逸話が残されています。それは浄土真宗の念仏者というのとは何もしなくてもいいとか、浄土真宗は優しい宗教だと、簡単に言

あくまで本願を聞くことによつて自分の内面から出てくる厳しさというのが浄土真宗の門徒の姿だと思ふんです。それが浄土真宗の道徳の源泉だと



御正忌報恩講

一月十三く十六日

浄土真宗で最も大切な
ご法要である宗祖親鸞聖
人の御正忌が例年通り四
日間にわたってお勤まり
になりました。

大雪にもかかわらずお
世話方が前日から準備を
進め本堂を暖めてお待ち
しました。仏婦の方々を
中心に大勢参詣され四日
間無事に勤まりました。
お講の方々も厳寒の中あ
りがとうございました。



総代、仏婦の方々による準備
ありがとうございます！



副住職



高務哲量先生（福井）



転法輪正視先生（福井）



総代、仏婦の方々お疲れ様！



今年は凄い雪でした。



内陣には御絵伝

仏教婦人会総会

十二月二十五日

十六・十七年度総会が開催されました。十一日から降り積もった雪が心配されましたが、当日は幸い晴天。各地から三十名余の参加がありました。住職から手を合わせるこ

との大切さと意味のお話があり、続いての坊守の法話は合掌がテーマでした。藤沢会長が二年間の感想を述べられ私たちの大切なお寺を皆で守らせていただきましょうと感慨を込めて挨拶されました。



総会では、十六年度・十七年度の会計報告及び監査報告があり、全員拍手で承認しました。今年には役員交代の時期で、藤沢会長始め二年間尽力された役員の方々の労をねぎらいました。新役員をご紹介します。

会長…久田英子
副会長…新保蓉子
橘 照子
会計…大藪節子
書記…大浦みい
監査…栗虫地区
担当地域は下村、栗虫地区の皆様です。二年間どうぞよろしくお願い致します。そして担当以外の皆様、役員の方を支援してあげてください。皆様の協力なくては何もできません。よろしく願い致します。



新年

一月一日午前〇時から例年通り除夜の鐘を撞き、同時に本堂ではおつとめが勤まりました。今年は、音沢地区のほんこさんで頂いた松藤を用意し、鐘を撞きにこられた方々に大変喜んでいただきました。



に集いながら全員が書初めをしました。十五日には成人式を迎えた中晴香さんが親子揃ってお寺にごあいさつ。子供の時からよくお話を聞いているので、仏様のお話にも素直にうなずいていました。お母様も感激されて仏様の前で成人をお祝いしました。



一・二日は新年のごあいさつに、例年通り多数のご門徒さんがお参りくださいました。三日は日曜学校の子どもかるた会上級生はOB混合で百人一首に挑戦。夜にはお寺とご縁のある若者が集まって、わいわい賑やか



姿変えても輝く地域

宇奈月町は三月三十一日大きな節目を迎える。町は黒部市と合併し、五十一年余りの歴史に幕を下ろし、町立の浦山下立、愛本、宇奈月の四小学校も同日閉校して新「宇奈月小」に統合する。姿を消す町と小学校に感謝しながら、さらに地域が輝くようにと、伝統行事や他の地域にはない独特の活動を続けよう、と力を尽くす人々と出会った。

(西嶋伸一 黒部支局長)

伝えよう 宇奈月の宝

―閉町・小学校統合へ―

□1□

雪が山積みになった宇奈 同士が仲良くなり、体も温月町浦山、善巧寺の境内。 ます。

手をつなぎ走り回る子ども 劇団は昭和五十四年、故たちの声が響く。ことは 雪山隆弘住職と、妻で元アの教室雪ん子劇団一の練習 ナウンサーの玲子さん(八)の最初に必ず行う準備運動 が創立。寺の日曜学校に来る子どもに接し、あいさつがでなかつたり、もじも

歌って、踊って汗だくになって「うぐいすの鳴く峠」を練習する雪ん子劇団の児童―宇奈月町浦山の善巧寺門徒会館



ことばの教室雪ん子劇団 もじもじしない子に



じして人前で話せない子が多いことに気付いたからだ。「ものおしせず、自己表現ができるようになるには、導する河村薫さん(七)は芝居が一番」と演劇好きの二人の意見が一致した。練習は毎週月曜日。鬼ごっこ後、発声練習、顔をみくちやにする体操、早口言葉、芝居のけいこが続く。現在の団員二十五人は三月の卒業公演で披露する「うぐいすの鳴く峠」を猛練習中だ。六年生の若林万里頭、



毎週月曜日、善巧寺の門徒会館で練習する雪ん子劇団のメンバー
―宇奈月町浦山

北條雅、山田みずほさん―浦山小は二重や兵庫など各地のステージに立って。恥ずかしがらずに大きな声で演技できるように「た」と六年間を振り返

コーラスしませんか

花まつりにすてきな仏教讃歌と子守唄をうたいましょう。是非参加してください。

練習日：4月5日、14日、21日

午後8時から

指導：内山太一先生

場所：門徒会館2階



手話や落語交え表現力豊かに
宇奈月・雪ん子劇団

宇奈月町の雪ん子劇団の卒業公演が二十六日、同町浦山の善巧寺で行わ



元氣いっぱいステージを繰り広げる劇団員ら―善巧寺

里萌さんが古典落語を披露した。グリム兄弟作の「白雪姫」は、十二年ぶりの上演となった。団員たちは、それぞれの役を精いっぱい演じ、観客から大きな拍手が送られた。同劇団は昭和五十四年、同寺で開校していた「うらやま日曜学校」の文化活動の場として発足。表現力豊かな子どもを育てていこうと活動している。

(北日本新聞より)

第三十回

花まつり

～花の誕生会～

四月二十三日 十時

花まつりとは、お釈迦さまの誕生日。善巧寺では、花まつりに合わせて、赤ちゃんの誕生を祝う「初参式」を行います。赤ちゃんが生まれたらまずお寺で初参り。新しいいのちをみんなでお祝いしましょう。

受付は九時半

初参式費三千元

お申し込みは

十六日までに

六五—〇〇五五



花まつり

4/23 午前10時

会場：白雪山善巧寺/雨天決行

初参式

赤ちゃんの誕生を祝う、お釈迦さまの誕生日。赤ちゃんが生まれたらまずお寺で初参り。新しいいのちをみんなでお祝いしましょう。

受付は九時半

初参式費三千元

お申し込みは十六日までに六五—〇〇五五

清掃奉仕

四月九日午前八時半

(雨天順延)

花つみ

四月二十二日

午前八時集合



参拝旅行

五月二十二～二十四日

善巧寺と深く関係のある宗門校「行信教校」

(大阪高槻)で行われる

最大の行事「専精舎」へ

参加します。一日開法、

雑魚寝など、ふつうの観

光とは一味違った参拝旅

行です。後半は京都へ移

動。納骨やおかみそりを

ご希望の方は事前にお知

らせください。

初日 大阪高槻

二日目 夕方京都着

三日目 気ままに観光

納骨

費用四万円ほど

ブッダからのメッセージ

仏教入門講座

日程：4月8日(土)

(4～9月まで毎月8日)

時間：午後7時半～8時半

会費：500円

—仏教ってなんだろう?—

インドにお生まれになったお釈迦さま(ブッダ)の生涯とおして、仏教を1から学びます。住職俊隆と坊守玲子が交代で4月から9月まで計6回の講座。映像やスライドを見ながら気軽に仏教に触れてもらう講座にします。どうぞご参加をください。

合 掌

今年は近年まれにみる大雪で大変大変ばかり言っている最中、一通の手紙が届きました。「雪はダムも要しない水源池で、また四季の変化の風景で、日本人の美意識・感性を培ってきた貴重な役も背負っています。ニュースを始めとした雪害のみを誇大に喧伝する風潮には抵抗を覚えます。」

* * *

四月はお釈迦さまの誕生日をご縁に、あらゆるいのちを祝う「花まつり」が行われます。今年はNHKやKNBのテーマ曲や挿入歌でも活躍の野崎弘通さんのバイオリンミニライブや絵画展も同時開催。参加されたことのない方は、是非一度遊びに来てください。

